

～ 追ってみました！ パノラマスキー場の経緯 ～

《町の観光開発》

富士見町の観光リゾート開発は、昭和40年代中頃に始まりました。

八ヶ岳山麓の広原財産区所有の土地を県企業局が八ヶ岳保健休養地開発事業として造成し販売。その収益でゴルフ場を始めとした諸施設をつくりました。その後、町・旧富士見町農協・広原財産区・商工会・開発公社・県地域開発公団などが富士見高原保健地管理株式会社を設立、安定的な管理運営に成功しました。

同時期、県企業局による入笠山麓保健休養地開発事業も始まり、青木の森・池ノ十の別荘地開発、入笠会館の建設などが進められました。

西山白谷の水を八ヶ岳山麓まで引いて開発したことに対し、富士見財産区関係者からも西山地域開発の強い要望の声が上がリ、町内の均衡ある発展を図るため、昭和62年にパノラマスキー場が建設されました。当時のバブル景気に乗じ、八十二銀行、諏訪信用金庫、旧富士見町農協の融資を受け、パノラマスキー場は、平成4年に約50億円をかけてゴンドラを増設しました。その後、返済を重ねてきましたが、平成7年をピークに入場者数が激減。平成10年以降返済が困難となり、法的措置を含めた様々な再生方法を研究し、また金融団との折衝を重ねた結果、「法的処理を避け、町で支援しながら再生の道をさぐる」と町と議会は結論付けました。

《平成14年度の支援策》

60億円の累積赤字・借入金を抱えたパノラマスキー場の再建計画

ゴンドラやリフト、レストハウスなど、パノラマスキー場の施設を、開発公社から町が2年に分けて合計およそ29億円で買い取りました。町の買ったゴンドラや建物等を開発公社に貸して、毎年2億3千万円の賃借料を町に返済してもらい、町はその賃借料で施設を買うためにした借金を返していく計画でした。

◇議会の対応

開発公社の借金を減らすために上下分離方式にして、町が起債で施設を買い取る(費用:平成14年度 約16億2千万円、平成15年度 約12億6千万円)予算案が提出され、賛成多数で可決しました。

《平成18年度の支援策》

町の借金27億円 公社の借金21億5千万円

平成14年度の計画どおり開発公社が毎年2億3千万円の賃借料を払えなくなり、新たな支援策が打ち出されました。

◎平成17年度～21年度までの5年間、公社から町への賃借料は「ゼロ」にする。(5年間は黒字になっても、およそ4億円の節税効果があるとの理由。)

◎公社の借金返済などの不足分は、町から公社へ貸す。

◎平成18年度より14年間、町から公社へ施設補修費など3千～5千万円を支援する。

◎15年間で町と公社の借金を返し終わった後、16年目から15年間、公社から町へ26億3百万円(毎年1億8千万円)を返す。終了は平成46年度の予定。

◇議会の対応

計画案に基き、平成17年～21年までの5年間、毎年町の一般会計から観光貸付特別会計に2億3千万円繰り入れる案が提出され、賛成多数で可決しました。

No.112 2010/4/1

発行／長野県富士見町議会
編集／議会広報編集委員会

〒399-0292
長野県諏訪郡富士見町落合10,777
Tel 0266-62-9403
Fax 0266-62-9320

<http://www.town.fujimi.nagano.jp/gikai-top.htm>

E-Mail:
gikai@town.fujimi.nagano.jp

ふじみ議会だよりは、議会ホームページでご覧いただけます。

